

中国製 HQ-9 型地対空ミサイル輸入中止の背景 (トルコのハイテク兵器開発の状況)

漢和防務評論 20160405 (抄訳)

阿部信行

(訳者コメント)

昨年、トルコは中国製地対空ミサイル HQ-9 の輸入をキャンセルしました。その背景には EU や米国の圧力があつたと報道されましたが、実態はトルコが西側技術を獲得するために中国カードを使ったのだ、と KDR は分析しています。トルコの軍事技術の進歩は目覚ましく、最近トルコとシリアの国境でロシア軍機 SU-24 を撃墜したのもトルコが軍事技術に自信を持ったからだと指摘しています。

2015 年 11 月、トルコ政府は、中国精密機器輸出入会社との 7 年間に及ぶ交渉を打ち切った。もはや HQ-9/FD2000 地対空ミサイルの輸入問題が協議されることはない。同月、トルコ空軍の F-16 戦闘機は、トルコ、シリア国境近くでロシア軍の SU-24 型前線爆撃機を撃墜した。この 2 つの事件を強いて関連付けると、実際は関連があるのだが、”トルコは、ロシアと EU 及び米国の関係が悪化したタイミングを狙って、ロシア、中国を遠ざけることによって NATO への加入を促進しようとしている”となる。

EU 内部では、米国も含めてトルコ総理のイメージは悪く、独裁者のシンボルであり、”中東の王”と蔑称されている。また 2013 年から、イスタンブールのデモを暴力で鎮圧し、EU 及び米国から公式に非難されている。

HQ-9 とトルコの問題に話を戻す。本誌は、2009 年からこの問題の追跡を開始した。当時、中国は HQ-9 を以て、ロシアは S-300PMU を以て入札に参加した。中国は相当真剣に対応し HQ-9 は有望であると見られていた。なぜならその前に、中国精密会社がトルコに B-611 短距離ミサイル、WS-1 ロケットを推奨して成功し、しかも技術移転も行っていたからである。中国精密会社は、過去 5 年間、大量の資金を投入し宣伝し公開したのを KDR は知っている。それが今のところ、完全に水の泡となった。同年、モスクワ軍事工業界の権威筋はイスタンブールで KDR に対し次のように述べた：我々は確かにトルコに S-300PMU を推奨したが、彼らが真剣でないことが分かった。なぜなら NATO は、トルコがロシア製或いは NATO 以外の国家の戦略防空システムを配備することを許すはずがないからだ。したがって我々は、彼らに一般的な資料の一部しか提供していない。これらの資料は誰にでも入手できる程度のものだ、と。

KDR は、最初から関連報道で、トルコが HQ-9、S-300PMU の入札を受けたこと、しかも再三再四、HQ-9 は競争入札過程で良いデータを提示し成績は最優秀である等々と、報道していた。しかしこれは全てトルコの見せかけだったのだ。最終目的

は、フランスや米国から多くの技術援助を引き出し、最終的に自力で類似システムを開発することになった。

ロシアはこの点を見通していた。トルコの軍事工業は、この 10 年間目覚ましい発展を遂げており、トルコが求めるのは主に技術移転にあると KDR は見ている。トルコは、初めから HQ-9 を輸入したいとは思っていなかったようだ。米国及び NATO からの強い政治的、軍事的圧力があれば、トルコは抵抗できない。極めて基本的な常識だが：米国及び NATO は HQ-9 の指揮管制システムと F-35 戦闘機を連繋させることはしない。長距離防空ミサイルは、戦略的に見て航空防衛力の重要な要素である。NATO 空軍にとって、中国がすでに潜在的作戦対象であることは KDR がすでに指摘している。NATO 空軍の”タイフーン”戦闘機の訓練資料には標的として中国の J-20 戦闘機が描かれている。

最近 10 年間のトルコと外国との軍事装備品協力方式を見ると、トルコの今後の進む道が見えてくる。

第一種方式：部品を含めたワンセットを輸入し、その後国産化を図る。これは 1990 年代初期及び中期の段階に該当する。典型的な例は、B-611 及び WS-1 等の中国製兵器である。当初中国から輸入したのは西側にこのような技術が無かったからである。しかしトルコとの協力関係は順風満帆ではなかった。

トルコ軍事工業界の権威筋は KDR に対して、中国とトルコの軍事協力の細部に就いて次のように述べた：例えば、T-300 (WS-1) ロケット砲である。最初の実弾射撃は JIUQUAN (音読、酒泉か?) で行われ、トルコ側はミサイル及び電子火器管制の一流の専門家を派遣した。1 番目のロケットが発射された後、我々は火球の爆発を視認した。我々は完全に失敗したことを知った。中国側の担当者の顔色からも失敗が見て取れた。数分後、中国側は正式に我々に告げた：ロケットは確かに着弾前に空中で爆発した。我々は原因究明中である、と。

当初我々は、中国製ロケットを輸入したくはなかった。試したい気持ちはあった。当夜、我々は会議を開いて不採用を決定した。

中国側は直ちに会議の開会を要求、夜通しロケットの残骸を捜した。会議の席で中国側は期限を設けた。すなわち 3 ヶ月内に原因を調査し、再度発射試験を行う。再度失敗した場合は我々に賠償する、と。3 ヶ月後、中国側は我々に失敗の原因は信管にあり、過敏すぎたため着弾前に誘爆したと述べた。したがって新型の信管に換装した。ロケットの射程は 100KM であり、発射数分後、我々はテレビ画面上で、確かに弾頭が標的に精確に命中したのを見た。ロケットは GPS 誘導システムを搭載しておらず、当然標的のエリアは大きい。現在我々は自国の T-300 (WS-1) には GPS 誘導システムを搭載しており、誤差は数メートルである。

我々は直ちに弾着点の検分を要求したが中国側は拒絶した。その理由は、100KM 外は砂漠の道路であり、深夜であり危険であると。

我々は同意できなかった。万一、小細工されたらどうしようもないからだ。危険でも行かねばならなかった。しかも我々は、疑いを持たれるような一つの興味ある事実を発見した。中国側代表団の中の一人が終始我々に付き纏っていた。技術の専門

家と言うことだったが、技術に就いては無知であった。しかしトルコ語に通曉していたことだけは確かである。我々は監視されていたのである。したがって我々は即刻会議を開催し、中国側にこの人物を交代させることを要求した。我々は、暗夜に弾着地点にやってきて録画映像と照合した。誤りがなかったことを確認した。そこで正式契約となった、と。
この談話から、トルコ人は頭が良いことが分かる。

第二種の協力方式は、近年来行われている方式である：通常、参考にしたい外国製兵器を選び、その後外国の専門家を招請し、トルコ国内に作業グループを設立し、モデルとなる外国製装備品の技術を基本にして、双方協力してトルコに適合した装備品を再設計する。この方式の典型は：韓国と共同設計した主力戦車であり、欧州と共同設計した武装ヘリである。これは 100%コピーの製品ではなく、独創的な部分もあり、完全に別物である。この種の方式は、中国の J-11B、J-15、J-16 戦闘機の開発方式よりも遥かに利点がある。まず第一に、回り道せず、開発期間の節約になり、無駄な経費を省くことが出来る。

これらの開発過程から見えることは：トルコは、最初から自国用長距離地对空ミサイルとして開発することを決定し、フランス及び中国に対しては技術支援を求めただけであったのだ。しかもフランスとの駆け引きに中国カードを使ったのである。HQ-9 キャンセル事案の背景には、SU-24 を撃墜した技術的自信の裏付けがある。トルコの軍事的実力を侮ってはならない。ロシア国防부는、SU-24 撃墜事件後、直ちにシリアに S-400 地对空ミサイルを配備することを宣言した。配備する場所は、ダマスカスの SU-24/34 の配備飛行場である可能性が高い。国境からの距離は 360 KM である。S-400 の魅力の一つは、最大射程が 400 KM (ロシア軍用) であることだ。すなわちダマスカスの陣地から国境付近を飛行するトルコ戦闘機を撃墜できる。これが、中国に諸外国に先駆けて S-400 を購入させた理由である。中国の S-400 は福建省に配備され、台北上空の敵機を撃墜することが出来る。

この事例だけから見ても、トルコ軍事工業の迅速な技術の進歩を窺うことが出来る。トルコの ROKETSAN 公司是、近年自主開発 (ロッキードマーチンと協力) した STAND OFF ミサイルシステムを積極的に輸出している。これを SOM と称し、INS+GPS+地形照合誘導方式を採用した。これは F-16、F-35 に搭載可能であり、公表された射程は 100 KM 以上である。すでに F-16 BLOCK 40 型に搭載されている。現在、EU、米国、中国、ロシアだけが類似の長距離空対地武器を開発している。もし SOM が射程 200 KM 以上に達したならば、F-16 の電子妨害能力と相まって S-400 陣地を攻撃することが可能になる。

トルコの F-16 BLOCK40 型は、トルコ国産の 500 ポンド JDAM 衛星誘導爆弾を搭載できる。これは TEBER と称し、INS+GPS+LASER 誘導である。射程は 2-28 KM であり、中国も類似の兵器を積極的に開発している。この方面の開発は、トルコはロシアよりも進んでいる。

同社の近年の技術的進歩は、第三世界では最高レベルにある。また誘導武器は、各種無人機が携帯する小型精密誘導爆弾を含め、完全にシリーズ化されている。この SMART MICRO MUNITION は、重量が 50 ポンド、射程 25 KM、レーザー誘導で、CEP は 1 メートルである。

CIRIT レーザー誘導空対地ロケットは、最大射程 8 KM で、ヘリに搭載する。これらの空対地攻撃兵器は、すべて S-400 地対空ミサイルに対する脅威になる。ヘリから発射される対戦車武器は L-UMTAS と称され、射程 8 KM、レーザー誘導である。対戦車ミサイルの開発は、活発に行われている。OMTAS の射程は 200-4000 メートル、赤外線画像誘導であり、赤外線画像+テレビ映像照準システムを採用している。

KDR は、外国技術の支援の下、トルコがすでに長距離地対空ミサイルを国産出来る能力を具備したものとする。

以上